

雨の降り方と風の強さの目安

雨の強さと降り方	予報用語	1時間雨量 (ミリ)	イメージ	風の強さと吹き方	予報用語	平均風速 (m/秒)	イメージ
	やや強い雨	10～20	ザーザーと降る。		やや強い風	10～15	風に向かって歩きにくくなる。 傘がさせない。
	強い雨	20～30	どしゃ降り。		強い風	15～20	風に向かって歩けない。 転倒する人が出る。
	激しい雨	30～50	バケツをひっくり返したように 降る。		非常に強い風 (暴風)	20～25	何かにつかまっていけないと 立っていられない。
	非常に激しい雨	50～80	滝のようにゴーゴーと降る。			25～30	
	猛烈な雨	80～	息苦しくなるような圧迫感がある。		猛烈な風	30～	屋外での行動は極めて危険。

避難の心得

いざというときのために、日頃から避難に必要なものを整理し、避難の手順について話し合っておきましょう。

状況により、すばやく避難しましょう
避難情報などが発表されていなくても、状況などから判断し、自主的に避難しましょう。

家族には連絡メモを残そう
外出中の家族には、「どこどこへ避難する」といったようなメモを残しておくといいでしょう。

浸水時、自動車での避難は危険
普通自動車は約30cmの浸水で走行困難になります。浸水時、自動車での避難は危険です。

集団で助け合おう
単独での行動は避け、近所の人たちと集団で決められた場所へ避難しましょう。

持ち出し品は最小限に
非常持ち出し品はリュックサックにまとめ、両手が自由に使えるようにしましょう。

安全なルートで避難
避難場所への経路は、川べりや地下歩道などは避け、できるだけ安全な広い道を選びましょう。

水平避難と垂直避難

災害では早めの避難が重要です。ただし、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている状況での無理な避難行動はできるだけ避けなければいけません。そのような場合は、がけや浸水区域から離れる(水平避難)だけでなく、近隣の高い建物や自宅の2階といった高い場所への移動(垂直避難)を行うという判断も必要です。また、土砂災害の危険性がある地区では、屋内でも山と反対側に避難を行うことも必要です。

危険な避難

避難場所への早めの避難(水平避難)

**屋外へ避難できない場合
高所への避難(垂直避難)**

台風(大雨・暴風)のときのタイムライン

警戒レベル	発表時の状況	あなたの行動	気象状況など
警戒レベル5	災害発生 又は切迫 緊急安全確保 (市が発令) ※必ず発令される 情報ではない	命の危機 直ちに安全確保 ●何らかの災害がすでに発生している可能性が極めて高い状況。 ●命の危険が迫っているため直ちに身の安全を確保してください。	大雨 特別警報

(警戒レベル4までに必ず避難!)

警戒レベル4	災害のおそれ 高い 避難指示 (市が発令)	危険な場所から全員避難 ●危険な場所から全員避難(立退き避難又は屋内安全確保)する。 ●外出することでかえって危険が及ぶ状況では、垂直避難しましょう。	特別警報 (大雨以外) 高潮警報 土砂災害 警戒情報
警戒レベル3	災害のおそれ あり 高齢者等避難 (市が発令)	危険な場所から高齢者等は避難 ●高齢者等※は危険な場所から避難(立退き避難又は屋内安全確保)する。 ※避難を完了させるのに時間を要する在宅又は施設利用者の高齢者及び障がいのある人等、及びその人の避難を支援する者。 ●高齢者等以外の人にも必要に応じ、出勤等の外出を控えるなど普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難を開始する。	警報 (高潮以外) 高潮注意報(*1) *1高潮警報に切り替える可能性が高い
警戒レベル2	気象状況悪化 大雨注意報 高潮注意報 (気象庁が発表)	自らの避難行動を確認 ●避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認する。	注意報 (高潮以外) 高潮注意報(*2) *2(*1)以外の高潮注意報
警戒レベル1	今後気象状況 悪化のおそれ 早期注意情報 (気象庁が発表)	台風到達1～3日前 備えの再確認 ▶防災マップで自宅周辺の危険な場所を確認する。 ▶避難先、避難経路を確認する。 ▶非常持ち出し品を準備する。 ●停電や断水でも生活できるように備蓄、準備する。 ●台風の進路などの情報収集を開始する。	早期注意情報 (警報級の可能性)

※避難情報は、これまでの雨量や災害、今後見込まれる雨量などから、状況に応じて発令します。必ず避難準備から順番に発令されるものではありません。
※土砂災害・高潮災害が発生する可能性がある場合や、発生した場合は「警戒レベル(3～5)」を用いて避難情報を発令します。